

幼老ケアの実践と、幼児との交流がもたらす認知症高齢者への効果検証 報告書 (概要版)

社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修東京センター 花田健二, 山口晴保, 橋本萌子

【研究背景】認知症の人と幼児の交流：世代間交流とは

世代間交流は、子どもへの教育効果などが検証されていますが、近年の郊外化などにより機会の減少傾向が指摘されており、継続するための知見と工夫が求められています。特に、今後増加が見込まれている認知症の人について、幼児との交流活動の種類やその効果について明らかにし、体系化された知識や標準的で継続的に実践できるための知見を得ていくことが重要であると考えます。

【研究目的】交流活動とその効果

幼老統合施設やグループホームの認知症の人と幼児の世代間交流効果に関連する要因（交流活動と交流有無での認知症の人のパーソナリティ特性の変化）について検討した。

【方法】交流実践施設のコーディネータへの郵送式全国調査

- 調査対象 幼児との世代間交流を実践している幼老統合施設やグループホーム
- 調査形式 郵送式アンケート調査（21都道府県30施設）。
- 調査内容 交流有効性（7段階Likert scale）、交流活動（興味・関心チェックシート46項目）、基本属性、交流有無時の認知症の人のパーソナリティ特性（Big Five短縮版29項目）。
- 回答者 コーディネーター（管理者・介護スタッフ）。交流プログラム対象の認知症の人の集団の印象について回答を得た。
- 分析方法 交流活動と認知症の人のパーソナリティ特性の変化量（交流有無で有意な差かつ正の変化）を独立変数、交流有効性（基準1～6と7、非常に有効）を従属変数として二項ロジスティック回帰分析。
- 倫理的配慮 認知症介護研究・研修東京センター倫理審査委員会の承認を得て、個人情報や不利益への対応を文書で説明し、任意の協力と返送をもって同意確認とした。

【結果】交流実践施設は多様な交流活動でその有効性を感じている

- 回収率 11施設37% (n=30)。
- 交流有効性 「6, 7. 非常に有効」の高い有効性群が90%。高い有効性群の交流活動は33項目。選択割合最多は散歩70%。最小は自分で食べる～針仕事4% (9項目)。
- 交流有効性・交流活動・認知症の人のパーソナリティ特性の関連性 二項ロジスティック回帰分析の結果「7. 非常に有効」の判断は「地域活動（町内会・老人クラブ）」の選択と、認知症の人の「話好き・親切的な・興味の広い」特性の高まりと有意な関連性が示された。

幼児との交流 認知症の人にとっての有効性(7. 非常に有効である/7点: 介護スタッフ判断)と交流活動(認知症の人がしていること)・パーソナリティ特性の関連性 (ロジスティック回帰分析)

	b	SE	Wald χ^2	p	OR	95% CI	
						LL	UL
切片	-9.45	4.50	4.42	0.04	0.00		
交流活動							
友達とおしゃべり・遊ぶ	4.64	2.61	3.16	0.08	103.23	0.62	17091.18
地域活動（町内会・老人クラブ）	3.26	1.59	4.21	0.04	25.99	1.16	584.69
パーソナリティ特性							
話好き・親切的な・興味の広い (交流有無差の合計点)	1.28	0.63	4.04	0.04	3.58	1.03	12.44
ステップワイズ法 (backward, 尤度比)							
		n = 30	Hosmer-Lemeshow 検定 $\chi^2 = 4.77$		df = 7	p = .69	
			Nagelkerke $R^2 = 0.77$				
			LR $\chi^2 = 23.7$		df = 3	p < .001	

【結論】「地域活動を含む幼児との交流実践」で、認知症の人の「話好き・親切的な・興味の広い」特性が高まる

幼老統合施設やグループホームの認知症の人と幼児の世代間交流について、コーディネーター（管理者や介護スタッフ）による活動選択とその効果判断から、「地域活動（町内会・老人クラブ）を含む幼児との交流」により「認知症の人のパーソナリティ特性（話好き・親切的な・興味の広い）」が高まる効果が示された。

【課題】地域活動を用いた、認知症の人の話好き・親切的な・興味の広い特性を高める世代間交流コーディネータとは

コーディネーターが地域活動を手段として、認知症の人にとっての交流効果としての「パーソナリティ特性変化（話好き・親切的な・興味の広い）の高まり」を引き出す具体的な手法を検討し、標準的に実践・継続可能な体系化された知見を得ていくことが重要である。

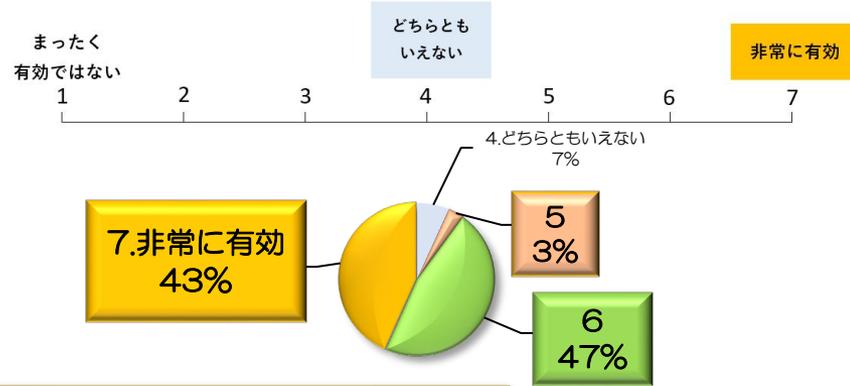
【認知症の人と幼児の交流効果】

～コーディネーターの活動選択とその効果～

『地域活動（町内会・老人クラブ）を含む幼児との交流』で、

『認知症の人のパーソナリティ特性（話好き・親切的な・興味の広い）が高まる効果』が示された。

認知症の人と幼児の交流：認知症の人にとっての有効性
コーディネーターの93%（5～7）は有効性を感じている（n=30）



認知症の人と幼児の交流：認知症の人の活動内容（複数回答）
～有効性が高いと回答した群～ n=27
様々な世代間交流活動が実践されている

